

## 2026年度 入学式 式辞

新入生の皆さん、そしてご家族の皆様、本日はご入学おめでとうございます。皆さんをお迎えできて本当にうれしく思います。数ある大学の中から清泉大学を選んでくださってありがとうございます。

皆さんが今日踏み出すこの一歩は、同時にこれまでの歩みに感謝をする日でもあります。これまで受けてきた多くの恵みを大切にしようと思いを新たに、そのことをぜひ心に留めていただきたいと思います。

本学での学びは、これまでの勉強とは異なります。皆さんが行うのは「学問」です。先生が言ったことを繰り返すだけではなく、理解したことを自分のうちに統合し、自ら新しいものを付け加えていく作業です。

何を学ぶかはそれぞれの学科の専門の教員が導いてくれます。同時に大切なのは「どのように学ぶか」を身につけることです。それは先生からだけでなく、友人や先輩、切磋琢磨するクラスメートの姿からも学ぶことができます。

そして最も重要なのは、「何のために学ぶのか」を問い続けることです。本学が目指しているのは、「愛することができる人」になることです。他者に奉仕することを自らの喜びとし、卒業する時に「私はこのために勉強してきました」と胸を張って言えるようになってほしいと願っています。その歩みを、今日、一緒に始めましょう。

「愛する」という言葉を具体化するために、3つの事柄を挙げてみようと思います。それは、「平和をもたらす」「対話ができる」「慈しみの心を持つ」という要素です。

第一に、平和をもたらす人であってください。聖書には「平和を実現する人々は幸いである」(マタイによる福音書5章9節)という言葉があります。自分自身の心に平和を保てる人、自分が所属するクラスや家族、地域といった共同体に平和をもたらす人になってください。それが将来、社会に平和をもたらす力となります。

第二に、対話ができる人であってください。人の言葉に耳を傾けられる人、同時に自分の考えをきちんと伝えられる人であること。他者を理解し、自己を表現できる力が、最終的に社会を良くしていきます。

第三に、慈しみの心を持つ人であってください。温かい人、優しい人であることが大切です。看護学科の皆さんは、1年目からこうした現実と直面することでしょう。すべて

の学生が、特に弱い立場にある人に寄り添い、命を尊ぶ優しさを持ってほしいと思います。

愛は言葉ではなく、行いによって表されます。自分の時間を誰かのために使い、見返りを求めない愛を、少しずつ人生の中で育ててください。皆さん一人ひとりの本学における学びと活躍を願い、私は毎日お祈りをしています。

2026年4月 清泉大学 学長 菅原裕二